



東京都教育相談センターだより

東京都教育相談センター
Vol.38 平成20年11月28日
東京都文京区本郷1-3-3
電話 03-5800-8545
FAX 03-5800-8402

気がかりな子供たち その6

「気がかりな子供たち」は全5回の予定でしたが、9月より、児童・生徒に関する重大な事件・事故があったことから全6回の特集としています。

逸脱行動のある子供たち

今回は、校則違反、夜遊び、怠学などの逸脱行動を繰り返す子供たちに、どのようにかかわっていけばよいかを考えます。

この子供たちは、しばしば生活指導の対象となり、いつも注意されることで、態度をさらに硬化させ、逸脱行動をエスカレートさせていきます。



学校で見られる様子は？



初めは単なる怠けに見え、覇気のない様子が目立ち、しだいに遅刻、欠席が増え、授業中に寝ていたり、提出物を出さなくなったりします。また、成績が急に下がったり、部活動を辞めたりします。

髪型や髪の色、眉毛、化粧にこだわったり、制服が乱れたり、ピアスをつけたりすることがあります。付き合う仲間がこれまでと変わり、女子の場合、異性に急接近することもあります。

学校への帰属意識が薄れ、夜間徘徊、不純異性交遊、バイク乗り回し、喫煙・飲酒・薬物乱用、恐喝、傷害事件などに発展してしまうこともあります。



子供の特徴は？



本当の意味で自分に向き合い、大人と話し合ったり、一緒に行動したりした経験が少ないため、反抗心や悲哀感を募らせています。また、自己評価が低く、不適応感が強くなっています。

幼い時から好奇心おう盛で多動傾向があり、突飛な遊びをしては怪我をしたり、新しい物・派手な物が好きだったり、自分がやりたいと思うと待てなかったりして、こつこつと努力することが苦手な子供も多く見られます。

「こうあるべき」という一方的な親の価値観を押し付ける過干渉型の家庭や、十分な養育やしつけがなされていない放任型の家庭に多く見られます。

かかわりのポイント



1 本人の自信のなさや寂しさに気付きましょう

表面的な行動だけを見て「問題が多い子供」と決め付けず、突っ張った言動をとらないでほしい、本人の自信のなさや寂しさを理解しましょう。

2 本人のよいところを見つけて励まし、信頼関係を作りましょう

自分らしさや長所を周囲の大人になかなか認めてもらえず、叱られたり否定されたりして育っている場合があります。逸脱行動をしなくても、いつも見ていてくれる、信頼できる大人がいると思えることが大切です。本人の人なつこさや優しさ、得意なことなどを積極的にほめ、本人のよさを保護者にも積極的に伝えていきましょう。

3 逸脱行為自体については許されないと、毅然と対応しましょう

「先生は自分という人間を認めてくれる」という基本的な信頼感を子供が持てるようにした上で、本人の逸脱行動に対してはうやむやにせず、毅然とした態度で対峙することが必要です。教師が、保護者とは異なる柔軟な価値観をもち、子供たちを受け止めると同時に、毅然とした態度で対応できる大人としてのモデルを示すことが大切です。逸脱行動がエスカレートしてしまっている場合には、警察や少年センターと連携をとることも必要になります。

進路相談会

進路に対する見通しと希望をもたせ、適切な進路の選択ができるよう支援するため、不登校の中学生・高校生、高等学校を中途退学した高校生相当年齢の方及びその保護者を対象に、進路相談会を開催しました。

今回は、10・11月に行われた、進路相談会の様子をお知らせします。

第一部 全体会

都立高校

チャレンジスクール、昼夜間三部制定時制、通信制の高校からそれぞれの学校の特徴や入学までの流れなどについて説明を行いました。

通信制サポート校の説明

通信制高校に在籍する生徒に対して、卒業に向けて学習面（レポート作成、テストへの対応）や生活面の支援を行う民間の教育機関を紹介しました。

今回から、全体会終了後に各参加校が個別相談を受け付ける機会を設定しました。参加者からは、「直接高校に相談することができてよかった」という感想が寄せられています。

第二部 個別相談会

個別相談会では、当センターの相談員が、1組30分程度で個人の状況に合った情報提供を行いました。

(相談例) 中学校にはほとんど行かず、適応指導教室に通っています。中学校の成績や学力に心配な面がありますが、都立高校への入学を考えています。どのような学校がありますか？

(回答例) 都立高校には、不登校経験の生徒を受け入れているチャレンジスクールが5校、チャレンジ枠を設けている高校が1校あります。

チャレンジスクールは、昼夜間定時制の総合学科で学力検査はありません。中学校の成績を問わず、作文、面接と志願申告書により選考を行います。

チャレンジ枠は、昼夜間定時制の普通科ですが、選考はチャレンジスクールと同じです。チャレンジスクールといっても学校ごとに特色がありますので、学校見学や説明会等に行き、自分に合った学校を選んでください。

都立学校向け教育相談にかかわる教員連絡会

教職員からの相談で特に多いのが、リストカットや薬の服用などにより自傷行為や自殺未遂をする生徒、発達障害など特別な支援を必要とする生徒への対応にかかわるものです。

さまざまな悩みや課題をもつ生徒には、教育相談的なかわりを通して対応することが大切です。さらに、学校では教育相談の充実を図り組織的に取り組むことが、生徒の問題行動や事件・事故の予防にもつながります。

本会は、生徒理解や心のケアについての理解を深め、各校の教育相談を充実するため11月に開催しました。

前半は、当センターの主任教育相談員が、平成19年度の研究成果より、「気がかりな子供たち」について6つの事例をあげて、それぞれの特徴とかわり方のポイントを解説しました。



後半は、専門家アドバイザースタッフ2名、校内の教育相談の充実に取り組んでいる都立高校の教員及び当センターの主任教育相談員による、「思春期の心理と心のサイン」をテーマにしたシンポジウムを行いました。それぞれの立場から学校現場における教育相談の状況が示され、その中から“人間関係の希薄さ”“感情の表現の仕方”“自己肯定感”について議論を深めました。

最後に、教員が生徒の情報を共有し、共通の対応をしていくことや、生徒が相談しやすい環境づくりを行う等、教育相談活動の充実を図っていく学校の取組を提言しました。

